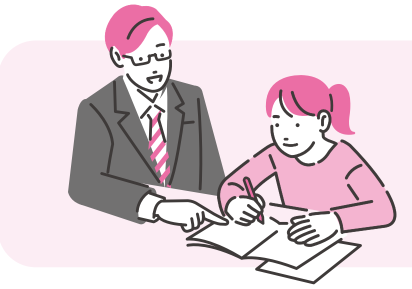
人材育成指標 改定のポイント

教職の素養

- 教職の素養については、教職員生活を通じて常に磨き続ける資質・能力であるという捉えから、キャリアステージを貫く姿として設定しました。



- これまで学校栄養職員と栄養教諭・主幹教諭（栄養）は同じ人材育成指標となっていましたが、求められる職務内容が明確に異なる部分を強調するため、別の人材育成指標として表記しました。
- 人権感覚及び多様性の尊重については、本市がこれまで大切にしてきた人権尊重の精神を基盤とする教育活動の推進を踏まえるとともに、児童生徒等にとって自分自身が最大の教育環境であるという自覚を常にもち続けることが求められているため、今回の改定では強調して表記しました。

専門性

- 日々の教育活動の中で、子ども一人ひとりの豊かな成長を支えていくために、特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもを深く理解することは欠かせません。また、専門領域における職務内容として給食管理は、子どもたちの健康・安全に関わる給食管理と食に関する指導として示しています。特に、食に関する指導における個別対応・個別的な相談指導は、管理職・養護教諭等と連携し、目の前にいる子どもの健康課題を解決していく指導であり、指導力向上を図る上でも、子どもを深く理解することが大切です。横浜市は、これまでも「子ども理解」を教職員の専門性を支える土台と据えていましたが、よりよい指導や支援においては、一人ひとりの子どもの実態に応じる必要があることから、「特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解」と表記しました。
- 教職員の「経験」や専門職としての「勘」、子どもたちとの日々の関わりに加え、様々な場面で「ICTや情報・教育データの利活用」を進めることは、一人ひとりの子どもをより多面的に、深く理解することにもつながります。専門性やマネジメント力の向上を図る上で大切な視点として「ICTや情報・教育データの利活用」を位置付けました。

- 「児童生徒理解に基づいた指導・支援」は「生徒指導提要」に基づき整理しました。「発達支持的生徒指導」や「課題予防的生徒指導」の充実が生徒指導上の諸課題の未然防止や再発防止につながることを捉え、先手型の常態的・先行的生徒指導を実践していくことの大切さを示しました。

マネジメント

- 「学校づくり」の視点に「給食経営マネジメント」「カリキュラム・マネジメントの推進」が加わりました。この力は授業力とも密接に関わるため、学校教育目標の実現に向けて、教育課程や食に関する指導の全体計画の実施・評価・改善の一連の流れを、日々の食に関する指導と紐付けていくことが大切になります。

- 学校・家庭・地域等との連携の中に「食育推進ネットワーク等における食育の充実」を位置付けました。栄養教諭を中核とした小中学校9年間のつながりのある食育を実現するために地域・家庭・教職員等と連携して取り組むことの大切さを示しました。
- 「教育課題に関する対応」については、時代や社会の潮流を読み解き、教育の方向性を的確に捉え、横浜市の教職員としてより一層理解を深め、教育活動に生かしていこうとすることが大切になります。

自分らしく「なりたい わたし」になる

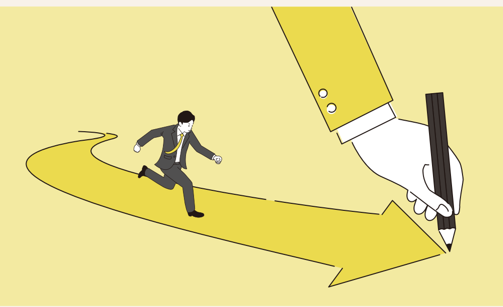
急激に変化する時代において、子どもたちの成長を担うわたしたち教職員にとって、「学び続ける姿勢」がより一層重視されています。今回、人材育成指標の改定では、横浜市の教職員として身に付けるべき資質・能力をキャリアステージごとに示しました。子どもたちのために自らの力を高めることは、教職員としての自身のキャリアを積み重ねることにつながります。人材育成指標を活用し、教職員としてのキャリアデザインをより具体的に描きましょう。そして、その実現に向けてセルフ・マネジメントを通して主体的に学び続け、資質・能力の向上を図りましょう。

主体的なキャリアデザイン

児童生徒同様、わたしたち教職員も多様な存在です。一人ひとりが自らの専門性を高め、強みを存分に発揮していくことが求められます。

そのためには、これまでの児童生徒や保護者との関わりや様々な経験を通して、どう成長したのかを見つめ、これからの目指す姿、そのためにすべきことは何かを考えた上で歩んでいくことが大切です。

自分を作るのは自分です。「教職員としてどう在りたいのか。」日々の教育活動の中で、節目節目で立ち止まり、自分自身へとベクトルを向けて考えてみましょう。



学び合う教職員集団

「教職員の学びは児童生徒の学びと相似形」と言われています。校外研修や自己研鑽による個人の学びに加え、現場の経験も含む同僚との対話や振り返りの機会など、協働的な学び合いが資質・能力の向上には欠かせません。

キャリアステージの変化とともに、自己の成長に加えて仲間の成長を支援する役割も増えていきます。校内の人材育成に取り組む中で、更に身に付けるべき資質・能力が明確になり、自分自身も更に成長することでしょう。

児童生徒のロールモデルとして、学び合う教職員集団の構築を目指しましょう。

栄養教諭・主幹教諭（栄養） キャリアステージ一覧

	えがく 任用時の姿	つくる 第1ステージ	たかめる 第2ステージ	みがく 第3ステージ	主幹教諭（栄養）
	自己の成長・自己開発の視点				チーム学校の一員としての視点
各ステージの説明	学び続ける姿勢をもち、教職に対する志を高めるステージ	栄養教諭として、資質・能力の基盤をつくるステージ	子どもとの関わりや給食管理、食に関する指導を通じて、自己の資質・能力、チーム力を高めるステージ	高い専門性やマネジメント力を発揮し、学校全体のチーム力を高めるステージ	学校運営の中核となり、広い視野をもち、校内外をマネジメントするステージ
それぞれのステージで求められる姿	•「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」をはぐくむために、学び続け、子どもに寄り添い、支えようとする姿	•栄養教諭としての必要な基本的事項について幅広く学び、自己の強みや弱みを捉え、資質・能力を高めている姿 •チーム学校の一員としての役割について、責任をもって果たそうとしている姿	•児童生徒等への関わりや給食管理、食に関する指導、健康課題への対応を通じて、必要な資質・能力を磨こうとしている姿 •身に付けた資質・能力を生かし、チームの中でリーダーシップを発揮している姿	•自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、専門的な視点からチーム力の向上及び人材育成に取り組んでいる姿	•自己の資質・能力を発揮しながら人材育成に取り組み、多面的・多角的な視点から組織的な学校運営を推進している姿 •学校教育目標の実現に向けて主幹教諭（栄養）としての自覚と責任をもち、マネジメントを行っている姿

改定します！

栄養教諭・主幹教諭（栄養）版

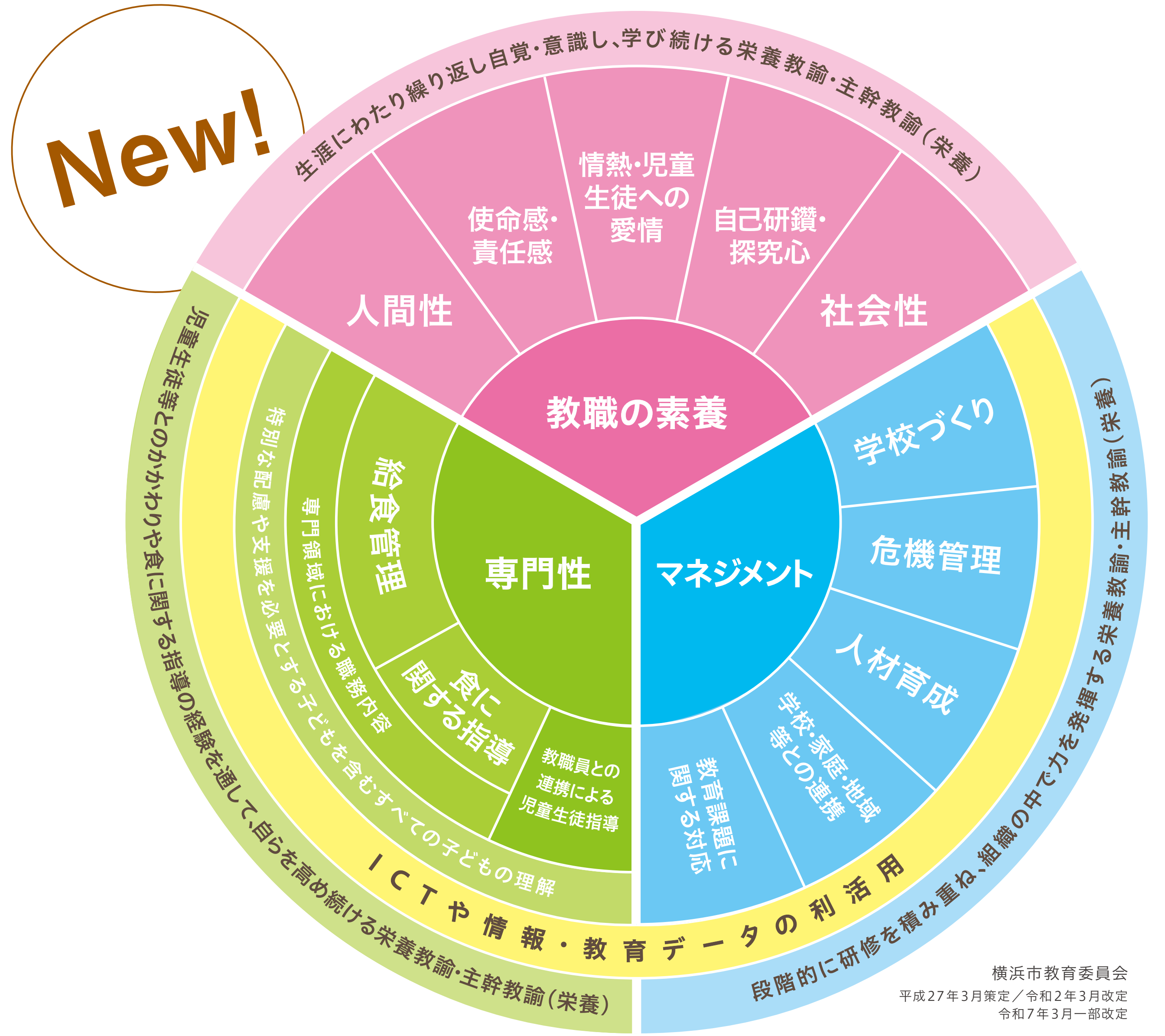
横浜市 人材育成指標【栄養教諭・主幹教諭（栄養）版】

【栄養教諭・主幹教諭（栄養）版】は ここが変わります！

経験や役割による
キャリアステージを
意識して、目標設定や
現状把握を行います。

これまでも重視してきた
「子ども理解」が
より重視されます。

専門性や
マネジメントを高める上で
「ICTや情報・教育データの利活用」
を進めることが求められます。


New!
生涯にわたり繰り返し自覚・意識し、学び続ける栄養教諭・主幹教諭（栄養）
人間性
使命感・責任感
情熱・児童生徒への愛情
自己研鑽・探究心
社会性
教職の素養
児童生徒等とのかかわりや食に関する指導の経験を通して、自らを高め続ける栄養教諭・主幹教諭（栄養）
特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解
専門領域における職務内容
給食管理
食に関する指導
教職員との連携による児童生徒指導
専門性
マネジメント
学校づくり
危機管理
人材育成
学校・家庭・地域等との連携
教育課題に関する対応
ICTや情報・教育データの利活用
段階的に研修を積み重ね、組織の中で力を発揮する栄養教諭・主幹教諭（栄養）

横浜市教育委員会
平成27年3月策定／令和2年3月改定
令和7年3月一部改定

わたしを育てる わたしが育てる

作成・編集：横浜市教育委員会事務局　教職員育成課　健康教育・食育課　　横浜国立大学教職大学院　　令和７年３月発行

横浜市 人材育成指標【栄養教諭・主幹教諭（栄養）版】

この表は、横浜市の栄養教諭・主幹教諭（栄養）が身に付けるべき3つの資質・能力と、それらを構成する要素及び要素を捉える視点を示しています。今回の改定では、本市がこれまでも指標に位置付けていた「子ども理解」をより重視し、日々の教育活動の中で、子どもたち一人ひとりの豊かな成長を支えていくために「特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解」と表記しました。また、これからの学校教育においては、「ICTや情報・教育データの利活用」の視点を踏まえることが大切であることから、「専門性」「マネジメント」をより効果的に行うための視点として位置付けています。

横浜市の
教職員として求められる
資質・能力を捉え、
目標設定につなげよう！

目指す姿	資質・能力					要素	視点
生涯にわたり繰り返し自覚・意識し、学び続ける栄養教諭・主幹教諭（栄養）	教職の素養					人間性	●教育に関する理念 ●倫理観 ●共感する力・受け止める力 ●人権感覚 ●多様性の尊重
						使命感・責任感	●教育公務員としての使命感 ●教育公務員としての責任感
						情熱・児童生徒への愛情	●教育的愛情 ●誇りと情熱
						自己研鑽・探究心	●向上心 ●創造力 ●課題発見・解決能力 ●自己省察
						社会性	●コミュニケーション能力 ●人間関係構築力 ●市民意識 ●信頼
児童生徒等とのかかわりや食に関する指導の経験を通して、自らを高め続ける栄養教諭・主幹教諭（栄養）	専門性	特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解	専門領域における職務内容	給食管理	ICTや情報・教育データの利活用	衛生管理	●学校給食衛生管理基準、横浜市学校給食衛生管理総合マニュアルに基づく衛生管理 ●HACCPの考えに基づく危害分析と衛生管理
						栄養管理	●学校給食摂取基準や食品構成に配慮した献立作成・食事内容の充実 ●残食調査等を踏まえた栄養管理
				食に関する指導		給食時間における指導	●給食時間における日常的な給食指導 ●給食を教材とした食に関する指導
						教科等における指導	●食に関する指導の全体計画 ●教科等の授業への参画
						個別対応・個別的な相談指導	●食物アレルギー、偏食、肥満・痩身等に関する個別対応及び個別的な相談指導 ●校内組織、関係機関等との連携
						専門領域におけるICTの活用	●給食運営や食育等におけるICT活用
			教職員との連携による児童生徒指導			児童生徒理解に基づいた指導・支援	●発達支持的生徒指導 ●課題予防的生徒指導 ●困難課題対応的生徒指導
						教育的ニーズに対応した指導・支援	●多様な教育的ニーズ（不登校、外国につながる児童生徒、苦しさを抱えている児童生徒等）に対応した教育の推進 ●特別支援教育の推進
段階的に研修を積み重ね、組織の中で力を発揮する栄養教諭・主幹教諭（栄養）	マネジメント					学校づくり	●学校経営への参画 ●組織づくりの推進・活性化への寄与
							●給食経営マネジメント
							●カリキュラム・マネジメントの推進
						危機管理	●安全配慮義務 ●学校給食における危機管理
							●コンプライアンス
							●労務管理 ●メンタルヘルス
						人材育成	●セルフ・マネジメント ●教職員同士の学び合い
						学校・家庭・地域等との連携	●食育推進ネットワーク等における食育の充実
							●保護者との連携
							●家庭・地域社会と連携した食育等の推進
						教育課題に関する対応	●今日的な教育課題の理解

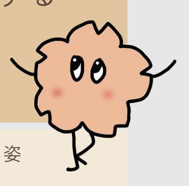
横浜市 人材育成指標【栄養教諭・主幹教諭（栄養）版】目標シート

キャリアステージ

○キャリアステージは、経験年数で一律に捉えるのではなく、任用時までの経歴や個人の資質・能力、チーム学校の一員として求められる役割等を考慮してください。

○目安として、第1ステージは「任用時から新任栄養教諭研修を修了するまで」、第2ステージは「中堅教員研修を受講する前まで」、第3ステージは「中堅教員研修の受講修了以降」とします。

	任用時の姿	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	主幹教諭（栄養）
	えがく 学び続ける姿勢をもち、教職に対する志を高める	つくる 栄養教諭として、資質・能力の基盤をつくる 校内外の関係者と進んで関わる	たかめる 子どもとの関わりや給食管理・食に関する指導を通じて自己の資質・能力、チーム力を高める 校内外の関係者と連携・協働	みがく 高い専門性やマネジメント力を発揮し学校全体のチーム力を高める 学校全体に関わる	学校運営の中核となり、広い視野をもち、校内外をマネジメントする
	•「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」をはぐくむために、学び続け、子どもに寄り添い、自身の役割を果たそうとしている姿	•栄養教諭としての必要な基本的事項について幅広く学び、自己の強みや弱みを捉え、資質・能力を高めている姿 •チーム学校の一員としての役割について、責任をもって果たそうとしてる姿	•児童生徒等への関わりや給食管理、食に関する指導、健康課題への対応を通じて、必要な資質・能力を磨こうとしている姿 •身に付けた資質・能力を生かし、チームの中でリーダーシップを発揮している姿	•自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、専門的な視点からチーム力の向上及び人材育成に取り組んでいる姿	•自己の資質・能力を発揮しながら人材育成に取り組み、多面的・多角的な視点から組織的な学校運営を推進している姿 •学校教育目標の実現に向けて、主幹教諭（栄養）としての自覚と責任をもち、マネジメントを行っている姿



資質・能力を身に付けている各キャリアステージの姿

各ステージの終了までに身に付けてほしい資質・能力を要素や視点ごとに示しています。一つ前のステージで身に付けた資質・能力については、次のステージに繰り返し記載していない場合がありますが、資質・能力は次のステージでさらに高め、磨いていくものであると捉えます。

資質・能力			要素	視点	任用時の姿	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	主幹教諭（栄養）
教職の素養			人間性	●教育に関する理念 ●倫理観 ●共感する力・受け止める力 ●人権感覚 ●多様性の尊重	•児童生徒等のよりよい成長のために誇りと情熱をもち、児童生徒等一人ひとりを大切にし、関わっている。 •社会や環境の変化に対応し、自己研鑽に努め、学び続け、自身の資質・能力を高めている。 •他者の助言に耳を傾けつつ、自分の考えを適切に伝え、他者と協働して教育活動に取り組んでいる。	児童生徒等のよりよい成長を目指し、横浜市の教職員として高い倫理観や教育理念をもって、教育活動に当たっている。／児童生徒等や教職員、保護者、地域等の思いに共感し、多様な価値観を認め、真摯に受け止めている。／「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活を送るための基盤となる、人権に対する確かな知識と豊かな人権感覚を身に付けている。			
			使命感・責任感	●教育公務員としての使命感 ●教育公務員としての責任感		教育公務員としての自覚をもち、法令等を遵守し誠実かつ公正に職務を遂行している。／「横浜市公立学校教職員行動基準」の内容を理解し、遵守している。／教職員の仕事の重要性を自覚し、教育者として誰からも信頼されるよう、行動している。			
			情熱・児童生徒への愛情	●教育的愛情 ●誇りと情熱		教育基本法で定める「教育の目的」及び「教育の目標」を踏まえ、児童生徒等に教育的愛情をもって接している。／横浜市の教職員として、誇りと情熱をもって、教育活動に当たっている。／組織における自らの役割と責任を自覚し、職務を遂行している。			
			自己研鑽・探究心	●向上心 ●創造力 ●課題発見・解決能力 ●自己省察		自己研鑽に努め、向上心をもって学び続けている。／児童生徒等、教職員との関わりの中で、個や学級及び学校の課題を捉え、それらの解決に向けて取り組んでいる。／上司や同僚からの指導・助言を真摯かつ謙虚に受けとめるとともに、自己分析を図り、日々の職務に生かしている。			
			社会性	●コミュニケーション能力 ●人間関係構築力 ●市民意識 ●信頼		周囲の状況や相手の思い、考えを汲み取り、自分の考えを適切に伝えている。／児童生徒等や教職員、保護者、地域等と積極的に関わり、人間関係を築いている。／自らが、児童生徒等の人格形成に関わる地域の一員であることを自覚し、教育活動に当たっている。			
専門性	特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解 ICTや情報・教育データの利活用	専門領域における職務内容	給食管理 衛生管理	●学校給食衛生管理基準、横浜市学校給食衛生管理総合マニュアルに基づく衛生管理 ●HACCPの考えに基づく危害分析と衛生管理	•学校給食の衛生管理基準や横浜市衛生管理総合マニュアル等、衛生管理に関する基礎的・基本的な内容を理解し、日常点検に関する指導・助言を行っている。 •適切な衛生管理に向けて、校内で共通理解を図りながら体制づくりに努めている。	•学校給食の衛生管理基準や横浜市衛生管理総合マニュアル等を理解し、日常点検に関して、効果的な指導・助言を行っている。 •適切な衛生管理に向けて、調理従事者、教職員等と連携し、自校の実態に合わせた衛生管理に努めている。	•学校給食の衛生管理基準や横浜市衛生管理総合マニュアル等を理解し、適時・的確に衛生管理を行っている。 •衛生管理の向上に向けて、調理従事者や教職員等と協力体制を構築し、自校の状況を踏まえ、適時・的確に助言を行っている。	•衛生管理に関する専門的な知識・技能を活用し、学校の実態や給食施設の状況を踏まえ、的確に衛生管理を実施している。 •衛生管理の向上に向けて、専門性を生かし指導・助言を行うとともに、衛生管理の課題解決のために組織で改善に努めている。	•衛生管理に関する専門的な知識・技能を活用し、衛生管理の向上に向けて、指導的立場を果たしている。
			栄養管理	●学校給食摂取基準や食品構成に配慮した献立作成・食事内容の充実 ●残食調査等を踏まえた栄養管理	•学校給食摂取基準等、献立作成に関する基礎的・基本的な内容を理解している。 •学校の実態を把握し、調理従事者と連携した献立改善に努めている。	•学校給食実施基準や市の献立作成方針を理解し、食品構成に配慮しつつ、学校の特色に応じた献立を作成し実施している。 •学校の実態を把握し、調理従事者や教職員等と連携し、献立や栄養指導の改善に努めている。	•学校給食実施基準や市の献立作成方針を理解し、食品構成に配慮しつつ、学校・地域の特色に応じた献立を作成し、実施している。 •学校、児童生徒等の実態を把握し、献立や栄養指導のねらいを共有し、実施後は多面的に評価し、改善に努めている。	•学校給食実施基準や市の作成方針を理解し、食品構成に配慮しつつ、学校・家庭・地域の特色や課題に応じた献立を作成し、実施している。 •学校、児童生徒等の実態や地域の実態を把握し、献立や栄養指導のねらいを共有し、実施後は組織的に評価し、改善に努めている。	•栄養管理に関する知識・技能を活用し、学校や地域の健康課題の改善に向けて、教職員、地域、関係機関等と連携し、効果的な栄養管理となるよう主体的に働きかけている。
			食に関する指導 給食の時間における指導	●給食時間における日常的な給食指導 ●給食を教材とした食に関する指導	•給食時間における日常的な給食指導の計画に沿った指導や支援を行っている。 •献立を通じて伝統的な食文化、栄養的な特徴など計画的に指導を行っている。	•日常的な給食指導に関して、学校給食計画やマニュアル等を活用し、全教職員の共通理解のもと計画的に指導を進めている。 •献立に関する資料や情報を提供し、教職員等と連携し、給食を教材とした食に関する指導を計画的に実施している。	•給食時間における指導について、全教職員と共通理解の上、児童会活動・生徒会活動と連携しながら、計画的・継続的な指導を進めている。	•給食時間における指導について、全教職員と共通理解の上、児童会活動・生徒会活動と連携しながら、計画的・継続的な指導を行い、実施後は多面的に計画の評価・改善を行っている。	•給食時間における指導に関する情報を収集し、自校の給食指導が効果的な指導となるよう主体的に働きかけ、組織で改善に努めている。
			教科等における指導	●食に関する指導の全体計画 ●教科等の授業の参画	•食に関する指導内容やPDCAサイクルに基づく食育の推進について理解している。 •「主体的・対話的で深い学び」の重要性を理解している。	•児童生徒等の実態に基づき、教職員と連携しながら、「食に関する指導の全体計画」を立案している。 •「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた食に関する指導の実践を学級担任等と連携して計画的に行っている。	•児童生徒等の食生活の実態や食に関する指導の実践の結果から課題を整理し、「食に関する指導の全体計画」の改善に積極的に関わっている。 •学習指導要領を理解し、専門性を生かした食に関する指導を計画的に行い、評価・改善を教職員とともに行っている。	•的確に実態把握をし、「食に関する指導の全体計画」の作成と実践において、中心的な役割を果たしている。 •組織全体で、食育の視点を位置付けた授業及び栄養教諭の専門性を生かした実践の評価・改善を行っている。	•的確な実態把握と最新の食育事情等を基に「食に関する指導の全体計画」及び指導内容を作成し、実施している。 •PDCAサイクルに基づく、総合評価を組織で行い、その成果と課題を可視化するなど学校全体で共有するとともに計画の改善に努めている。
			個別対応・個別的な相談指導	●食物アレルギー、偏食、肥満・痩身等に関する個別対応及び個別的な相談指導 ●校内組織、関係機関等の連携	•教職員等と連携し、児童生徒等の実態を踏まえた個別対応に取り組もうとしている。 •食物アレルギー対応において、専門性を生かし、対応しようとしている。	•食に関する課題及び健康課題を有する児童生徒等の実態把握を教職員と連携し行い、課題の改善に向けて、指導・助言している。 •食に関する健康課題を有する児童生徒等や保護者と合意形成を図り、教職員と連携しながら、組織的に指導に取り組んでいる。	•児童生徒等の食に関する課題や健康課題の解決のために、必要な知識・技術を高め、教職員と連携し、個別対応及び個別的な相談指導を組織的に実施している。 •個別的な相談指導の効果や課題について多面的に評価し、指導の改善を図っている。	•児童生徒等の食に関する課題や健康課題の改善に向けて、教職員や関係機関等と連携、協働し、専門的な知識・技能を活用して、児童生徒等や保護者へ指導、助言、支援を行っている。 •個別的な相談指導の実施状況を学校全体で共有し、実施後は、多面的に評価を行い、改善している。	•個別対応や個別的な相談指導において、的確な実態把握を行い、課題解決に向けて、校内組織及び関係機関等と連携し、指導、助言、支援を行っている。 •個別的な相談指導の実践や実践の効果を市内栄養教諭と共有し、栄養教諭の資質・能力の向上に努めている。
			専門領域におけるICTの活用	●給食運営や食育等におけるICT活用	•給食運営や食に関する指導に必要なICTの操作方法や情報モラルを理解している。	•ICT活用指導力の向上を図り、給食管理や食に関する指導に生かしている。	•主体的にICTを活用するとともに、個人情報に配慮しながら、食や健康に関するデータを収集し、栄養管理、給食指導、食に関する指導に効果的に活用している。	•ICTを活用し、教職員と連携しながら、食や健康に関するデータを生かした栄養管理、給食指導、食に関する指導に組織的に取り組んでいる。	•食や健康に関する分野において、学校全体でICT活用に向けた取組を推進したり、教職員間で連携して仕組みを構築したりしている。
		教職員との連携による児童生徒指導	児童生徒理解に基づいた指導・支援	●発達支持的生徒指導	•児童生徒等一人ひとりに寄り添い、尊重するとともに、安全・安心な風土を醸成し、豊かな成長を支えようとしている。	•全ての児童生徒等に対し、一人ひとりの発達の過程をいかに支えるかという視点に立ち、日々の教育活動を行っている。	•受容的・共感的な態度で児童生徒等に関わり、学年等のチームと協働し、発達支持的生徒指導を行っている。	•組織的に児童生徒理解を図るよう、周囲の教職員に働きかけたり、発達支持的生徒指導の充実に向けて、適切な指導・助言を行ったりしている。	•必要に応じて管理職及び校内外の各組織や関係機関とも連携する等、組織的に児童生徒理解を図る仕組みを構築し、発達支持的生徒指導の充実を図っている。
				●課題予防的生徒指導		•児童生徒等の実態把握に向けて、日々の観察や調査データ等を活用して情報収集し、課題を早期に発見するとともに、未然防止教育及び対応に取り組んでいる。	•収集した情報等を活用し、学年等のチームと協働して課題の早期発見に努めるとともに、より実効性のある未然防止教育及び対応を推進している。	•生徒指導に係る課題の早期発見やより実効性のある未然防止教育及び対応について、学校全体で組織的に実践できるよう周囲の教職員に働きかけている。	•生徒指導に係る課題の早期発見、より実効性のある未然防止教育及び対応の充実に向けて、管理職と連携し、学校の課題を捉え、組織的な解決に向けた取組を推進している。
				●困難課題対応的生徒指導		•いじめ等の特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒等に対し、一人で抱え込まず早期発見と即時対応に向けた報告・連絡相談の重要性を理解し、協働的に対応している。	•特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒等に対し、学年等のチームで現状を的確に把握し、早期発見と即時対応に向けて、校内組織等と連携を図り、取り組んでいる。	•特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒等に対し、校内組織だけでなく、関係機関と連携しながら、より適切な早期発見と即時対応及び継続的な支援を、学校全体で組織的に実践できるよう推進している。	•特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒等に対し、より実効性のある早期発見と即時対応のために、学校の課題を捉え、組織的に解決し、継続的に支援できる仕組みを構築している。
			教育的ニーズに対応した指導・支援	●多様な教育的ニーズ（不登校、外国につながる児童生徒、苦しさを抱えている児童生徒等）に対応した教育の推進		•児童生徒等の実態や保護者の願い、教育的ニーズを捉え、他の教職員等と協働し、適切な指導・支援を日常的に行っている。	•児童生徒等の多様な教育的ニーズに対応するためのよりよい指導・支援について校内で共通理解を図り、連携しながら行っている。	•校内組織や関係機関と連携し、教育的ニーズへのよりよい対応の視点から教育内容及び支援体制の充実を図っている。	•児童生徒等の教育的ニーズに的確に応える多様で柔軟な仕組みや環境づくりを推進している。
				●特別支援教育の推進		•あらゆる教育の場で、一貫した適切な指導・支援や合理的配慮を提供するため、特別支援教育に係る知識・理解の向上を図っている。	•特別支援教育を校内で推進していくために、児童生徒等一人ひとりの実態や保護者の願いを捉えるとともに、他の教職員と連携した指導・支援体制や教室環境の充実を図っている。	•特別支援教育を校内で推進していくために、自校の課題を的確に把握するとともに、他の教職員等に対して適切な指導・助言を行っている。	•特別支援教育の充実に向けて、校内における特別支援教育の中心的な役割となり、管理職及び各組織と連携するとともに、学校全体に主体的に働きかけ、組織的な対応を行っている。
						•個別の教育支援計画、個別の指導計画を児童生徒等本人、保護者と共に作成し、活用している。	•実態把握をもとに、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、個別の教育支援計画、個別の指導計画を児童生徒等本人、保護者と共に作成し、意図的・計画的な指導・支援の実践に向けて活用している。	•学びの充実や課題の解決に向けて、個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用するとともに、校内組織や関係機関と連携しながら実践している。	
マネジメント			学校づくり	●学校経営への参画 ●組織づくりの推進・活性化への寄与	•「チーム学校」の一員として自分にできることを考えながら学校運営に参画している。	•学校教育目標の実現に向けて、組織の一員としての役割を認識し、日々の教育活動の中で責任を果たしている。	•学校教育目標の実現に向けて、チームでリーダーシップを発揮し、自校の学校経営の評価・改善のサイクルの中で教育活動を工夫・改善を行っている。	•ICTや情報・教育データを活用しながら課題を把握し、各組織と連携して、課題解決に取り組むとともに、効果的かつ効率的な組織運営に向けて他の教職員等の育成を行っている。	•主体的に学校経営に参画し、学校の課題解決に向けて、管理職及び各組織と連携している。
				●給食経営マネジメント		•栄養管理、衛生管理と合わせ、施設設備・予算・調理従事者等の管理を的確に組織的に行っている。 •学校給食に関する危機管理について、全教職員で理解するために、校内組織や関係機関等と連携し研修を企画・実施している。			•施設設備・予算・調理従事者等の視点から、学校の課題解決や組織的な対応に向けて、管理職や各組織と積極的に連携している。
				●カリキュラム・マネジメントの推進		•学校教育目標を踏まえ、児童生徒等の実態に応じて教育課程の実施・評価・改善を意識した取組を行っている。	•チームが協働して、教育課程の実施・評価・改善を意図的・計画的に行っている。	•教育課程の実施・評価・改善を組織的に行い、学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの推進役となっている。	•地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、他の教職員や各組織に働きかけ、教育課程の不断の見直しを管理職とともに図っている。
			危機管理	●安全配慮義務 ●学校給食における危機管理		•防災及び防犯・安全、学校事故の未然防止や学校給食における危機管理（異物混入、食物アレルギー、食中毒、窒息防止）の視点から、教職員間の情報共有を図りながら、自身の意識を高めるとともに、組織内での役割を果たしている。	•防災及び防犯・安全、学校事故の未然防止や学校給食における危機管理（異物混入、食物アレルギー、食中毒、窒息防止）の視点から、チームが円滑に機能するように適切な情報共有や情報提供を行っている。	•防災及び防犯・安全、学校事故の未然防止や学校給食における危機管理（異物混入、食物アレルギー、食中毒、窒息防止）の視点から、教職員と情報共有を行いながら、学校全体で意識を高め、組織的な対応に向けた働きかけを行っている。	•防災及び防犯・安全、[illegible]
				●コンプライアンス		•教職員としての高い倫理観と規範意識に基づいて、コンプライアンスについて理解し、不祥事根絶の意識をもっている。	•コンプライアンスを常に意識し、自らが服務規律を遵守するとともに、チームの一人ひとりに目を向け、不祥事根絶等の重要性を伝えている。	•定期的にコンプライアンスの意識を高める対策を自ら講じるとともに、学校組織全体に目を向け、コンプライアンスの意識を日々高めていく重要性を伝えている。	•学校組織全体に[illegible]
				●労務管理 ●メンタルヘルス		•心身の健康の保持・増進に向けて、ICT等を活用した自身の業務改善及びメンタルヘルスケアを行っている。	•心身の健康の保持・増進に向けて、ICT等を活用したチームの業務改善及びメンタルヘルスケアを行っている。	•心身の健康の保持・増進に向けて、ICT等を活用した学校全体の業務改善やメンタルヘルスケアを組織的に推進できるよう努めている。	•心身の健康の[illegible]
			人材育成	●セルフ・マネジメント ●教職員同士の学び合い		•自らのキャリアデザインを描き、自己分析に応じて研修や研究会等を活用するとともに、他者と協働して資質・能力の向上に努めている。	•自他の強みを生かしながら、チームの組織力を高めたり、チームの一人ひとりの成長を見据えた支援や関わりを行っている。	•専門性やマネジメント力を発揮して、周囲の教職員の資質・能力の向上や次世代の教職員の育成に資する働きかけを進んで行っている。	•高度な資質・[illegible]
			学校・家庭・地域等との連携	●食育推進ネットワーク等における食育の充実		•小中学校9年間のつながりのある食育を意識し、食育推進ネットワーク内の食育担当者と連携を図り、地域や児童生徒等の実態把握や情報共有を行っている。	•小中学校9年間のつながりのある食育を行うために、児童生徒等の食生活の実態把握と情報共有を行い、食に関する指導の全体計画の作成や食に関する指導について、支援をしている。	•小中学校9年間の食育の推進のために、食に関する指導の実践について、専門的な視点から助言し、支援を行っている。	•児童生徒等や[illegible]
				●保護者との連携		•学校が家庭や保護者と連携・協働することについてチームとしての関わり方を考え、推進している。		•家庭や保護者とのよりよい連携・協働について、学校全体で共通理解を図りながら、周囲の教職員に対し、適切に指導・助言している。	•家庭や保護者[illegible]
				●家庭・地域社会と連携した食育等の推進		•家庭・地域等に向けて、児童生徒等の食や栄養に関して発信している。	•保護者や地域、関係機関等と連携・協働し、食育を推進している。	•食育の取組の質的な向上に向けて、学校全体で共通理解を図りながら、地域・関係機関等と協働し、計画的・継続的に食育を推進している。	•地域及び関係[illegible]
			教育課題に関する対応	●今日的な教育課題の理解		•教育の方向性について背景や根拠を確認するなどして理解し、主体的に課題等に対応している。	•時代や社会の潮流を読み解き、教育の方向性を的確に捉え、理解を深めるとともに、課題等に対応するために組織の一員として貢献している。	•教育の方向性を踏まえた様々な対応について、校内で重要な役割を担い、学校全体での意識を高め、組織的な対応に向けた働きかけを行っている。	•教育の方向性[illegible]